北部病院だより　第89号

第 89 号【2015/5/1 発行】
発行元：昭和大学横浜市北部病院

●巻頭言
『医師も患者も知らない役人の世界』
●事務長就任のご挨拶
●医師の配属・異動・退職
●診療統計
●患者さんへのお知らせ
●コメディカルリレー紹介
●ＴＯＰＩＣＳ

こどもの日には菖蒲の花を

巻頭言　『医師も患者も知らない役人の世界』

麻酔科
小坂　誠　教授

飛行機はなぜ飛ぶか知らなくても，飛行機には搭乗できます。同様に医師の育成過程を知らなくても，病院は受診できます。医療は厚生労働省(厚生省)の管轄ですが，平成 15 年まで新人医師の 7 割は，文部科学省(文科省)管轄の大学病院(医局)へ入局していました。医局は市中病院を傘下に治め医療の多くの部分を牛耳る医局制度を構成していました。厚生省にとっては全く面白くない話で，庇(ひさし)を貸して母屋を取られる状態でした。そこで一計を案じて，新人医師の教育(研修医制度)が不備なことに目を付け，平成 16 年に新研修医制度を制定して，市中病院での初期研修を大幅に増やすことで覇権の奪還を図りました。

スタートから 2 年間，医局には新人医師が入局しない事態と成り，深刻な医師不足から医局の権威は大いに失墜しました。新研修医制度では研修医は国が雇用すると公言した厚生省でしたが，財源が無く研修医の給与は各病院負担となりました。これによって地方では高額，都市部では低額の賃金体系が生じ，研修医を奪い合う弊害も生じました。第一ラウンドは厚生省の圧勝でしたが，2 年が経過し研修を終了した医師が次々と誕生すると市中の病院では雇用しきれず，行き場を失った医師が大学へ戻って入局する状況となり，医局制度は崩壊しませんでした。しかし，まだまだ諦めない厚生省は，今度は専門医制度に目を付けて，再挑戦を果たします。現在，専門医は各学会(内科学会，外科学会等)が，各々で試験を行い認可しています。ここに厚生省の肝いりで日本専門医機構が創設され，「専門医には国家認定のお墨付きを与える。」と得意の許認可権で実行支配を敢行しました。当初，厚生省は専門医の審査から当該学会は排除すると宣言しましたが，じゃあ誰が試験するの？他科の先生？それって国語の先生に算数の問題作れと同じでは？という窮地に陥り，当該学会の参加が許可されました。お愛想ではないですが，新研修医制度も専門医制度も医師のレベルアップに貢献する良い制度だと思います。ただ大学病院は文科省からすれば全体の一部分に過ぎませんが，この一部分が厚生省の担う医療の中枢部分を占めていることが，問題をややこしくしています。

日本には 807 兆円の巨額な財政赤字が有り，歳出は社会保障費 32.7%，国債費 24.3%と両者で 57%に上ります。総人口は 2011 年から 3 年連続減少し，65 歳以上の人口は 3,190 万人と全体の 25.1%に達します。私は子育て支援の対象ではありませんが，高齢者福祉の対象です。文科省と厚生省には，それぞれの事業で成果を挙げられることを切に望みます。

事務長就任のご挨拶

事務長　田口　彰彦

４月１日付けで荒木田事務部長の後任として昭和大学横浜市北部病院(以下、北部病院)の事務長職を継ぐこととなりました。田口彰彦と申します。私は、平成５年に昭和大学（歯科病院医事課に配属）に入職後、平成 10 年から北部病院開設準備室、平成 13 年の開院から病院草創期という慌ただしくも貴重な経験を３年した後、人事部人事課、総務部管財課、そして、昭和大学附属烏山病院勤務を経て 11 年ぶりに北部病院に戻って参りました。身に余る重責ではありますが、誠心誠意、昭和大学並びに北部病院の発展に尽力し、患者さんのみならず、地域近隣の皆様のご期待に沿えるよう努力して参ります。今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。北部病院は、大学附属施設としての使命である教育・研究・診療の質の向上を図ると共に横浜市の地域中核病院としての使命を果たすべく病院機能の向上を図っていきます。そのひとつとして、本年４月より医師、看護師、社会福祉士に事務職員を加えた多職種がひとつのチームとして患者さんやご家族が安心して療養生活や社会生活が送れるようサポートすると共に患者さんにとって最善の医療を提供する事を目的・目標に「患者支援室」を設置いたしました。このように、高度な医療を提供できる大学附属施設として、また地域の中核病院としての北部病院の役割を着実・確実に実施していく所存であります。

さて、平成 13 年４月(2001 年)に開院した北部病院は、今年で 15 年の節目を迎えました。それは同時に施設設備の大規模修繕や院内各所に配置されている医療機器の更新時期も迎えることとなり、平成 13 年開院以来の厳しい経営状況に直面しております。しかしながら、施設設備の修繕や医療機器の更新を行わなければ北部病院の病院理念である、常に心こもる病院でありつづける。無事故の病院になる。そして、現在望みうる最高の医療をおこなう。と言う初代病院長の黒川高秀先生から２代目病院長の田口進先生。そして、現病院長である世良田和幸先生の下、開院から変えることなく受け継ぎ掲げてきた理念や昭和大学の建学の精神であります「常に相手の立場に立って真心を尽くす」と言う意味が込められている「至誠一貫」も実践することが出来ません。いま、病院がこのような経営状況であることを認識し、世良田病院長を中心に英知を絞り、全職員が一丸となってこの危機を乗り越え、北部病院が新たなステージへ行けるよう頑張っていきたいと思っております。病院内外の皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

2015 年４月～５月

【新規採用】

原　義明
（消化器ｾﾝﾀｰ）
新潟大学院
平成 19 年卒

片岡　伸一
（消化器ｾﾝﾀｰ）
香川大学
平成 21 年卒

和田　尚人
（消化器ｾﾝﾀｰ）
浜松医科大学
平成 22 年卒

工藤　孝毅
（消化器ｾﾝﾀｰ）
昭和大学
平成 19 年卒

深見　裕一
（消化器ｾﾝﾀｰ）
信州大学
平成 21 年卒

渡部　真裕子
（消化器ｾﾝﾀｰ）
旭川医科大学
平成 24 年卒

宮原　義典
（循環器ｾﾝﾀｰ）
岡山大学院
平成 18 年卒

生末　敏和
（内科）
川崎医科大学
平成 22 年卒

西川　徹
（外科）
聖ﾏﾘｱﾝﾅ
　　医科大学院
平成 11 年卒

中村　亜季子
（眼科）
川崎医科大学
平成 21 年卒

古市　州郎
（整形外科）
川崎医科大学
平成 21 年卒

【昭和大学附属施設より】

橋本　直方
（呼吸器ｾﾝﾀｰ）
昭和大学病院
呼吸器･ｱﾚﾙｷﾞｰ
内科より

石川　琢也
（こどもｾﾝﾀｰ）
藤が丘病院
小児科より

小川　浩史
（ﾒﾝﾀﾙｹｱｾﾝﾀｰ）
烏山病院
精神神経科より

清水　拓未
（ﾒﾝﾀﾙｹｱｾﾝﾀｰ）
烏山病院
精神神経科より

中村　暖
（ﾒﾝﾀﾙｹｱｾﾝﾀｰ）
烏山病院
精神神経科より

白田　直之
（救急ｾﾝﾀｰ）
藤が丘病院
整形外科より

佐藤　由似
（皮膚科）
東病院
皮膚科より

東山　祐介
（整形外科）
昭和大学病院
整形外科より

前田　昭彦
（整形外科）
江東豊洲病院
整形外科より

秋野　亮介
（産婦人科）
昭和大学病院
産婦人科より

安田　健作
（眼科）
江東豊洲病院
眼科より

和田　悦洋
（眼科）
東病院
眼科より

齊田　瑠加
（麻酔科）
歯科病院
全身管理歯科学
より

山本　理絵子
（麻酔科）
歯科病院
全身管理歯科学
より

黒田　佑介
（呼吸器ｾﾝﾀｰ）
昭和大学
内科研修医より

黒川　信二
（内科）
昭和大学
内科研修医より

井川　渉
（心臓血管
ｶﾃｰﾃﾙ室）
昭和大学
内科研修医より

木戸　岳彦
（心臓血管
ｶﾃｰﾃﾙ室）
昭和大学
内科研修医より

小野　盛夫
（心臓血管
ｶﾃｰﾃﾙ室）
昭和大学
内科研修医より

齋藤　秀嘉
（こどもｾﾝﾀｰ）
昭和大学病院
研修医より

水越　曜子
（こどもｾﾝﾀｰ）
横浜市北部病院
研修医より

寺山　祥子
（麻酔科）
横浜市北部病院
研修医より

酒井　翔吾
（呼吸器ｾﾝﾀｰ）
昭和大学卒
内科研修医採用

小川　正隆
（消化器ｾﾝﾀｰ）
昭和大学卒
内科研修医採用

加賀　浩之
（消化器ｾﾝﾀｰ）
昭和大学卒
内科研修医採用

大山　祐司
（心臓血管
ｶﾃｰﾃﾙ室）
昭和大学卒
内科研修医採用

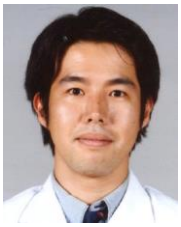
【平成 27 年度採用研修医】

秋本　貴子
北里大学卒

太田　佐保子
昭和大学卒

荻原　陽
昭和大学卒

上岡　康昭
昭和大学卒



川合　秀明
昭和大学卒

木村　太朗
昭和大学卒

小泉　真太郎
昭和大学卒

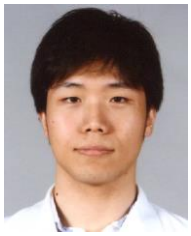
斎藤　惇平
昭和大学卒

嶋津　英
昭和大学卒

清水　翔平
金沢医科大学卒

瀬戸　詩織
昭和大学卒

髙野　洋次郎
杏林大学卒



高橋　聖也
昭和大学卒

服部　透也
昭和大学卒

藤橋　政尭
昭和大学卒

宮上　真
昭和大学卒

【配置転換】

・斎藤　重男（救急ｾﾝﾀｰ⇒心臓血管ｶﾃｰﾃﾙ室）
・星本　剛一（心臓血管ｶﾃｰﾃﾙ室⇒救急ｾﾝﾀｰ）
・斎藤　克幸（女性骨盤底再建ｾﾝﾀｰ⇒泌尿器科）
・山﨑　武士　（こどもｾﾝﾀｰ⇒循環器ｾﾝﾀｰ）
・小川　雄一郎（女性骨盤底再建ｾﾝﾀｰ⇒泌尿器科）
・松本　祐樹　（女性骨盤底再建ｾﾝﾀｰ⇒泌尿器科）

【長期学外研修からの復職】

・大橋　慎一（呼吸器ｾﾝﾀｰ）
・鈴木　謙一（消化器ｾﾝﾀｰ）
・加藤　明澄（産婦人科）
・趙　智成　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・漆原　史彦（消化器ｾﾝﾀｰ）
・岩本　泰斗（麻酔科）
・神山　勇太（消化器ｾﾝﾀｰ）
・豊嶋　直也（消化器ｾﾝﾀｰ）

異動　退職医師

2015 年 2 月～4 月

【昭和大学附属施設へ】

・石井　源　（呼吸器ｾﾝﾀｰ⇒藤が丘病院呼吸器内科）
・宮上　哲　（産婦人科⇒江東豊洲病院周産期ｾﾝﾀｰ）
・吉田　健也（眼科⇒リハビリ病院眼科）
・酒井　健　（救急ｾﾝﾀｰ⇒藤が丘病院整形外科）
・松本　皆子（こどもｾﾝﾀｰ⇒昭和大学病院小児科）
・奥村　恵子　（皮膚科⇒藤が丘病院皮膚科）
・内山　正信　（内科⇒昭和大学病院内科）
・平田　亮人　（ﾒﾝﾀﾙｹｱｾﾝﾀｰ⇒東病院精神神経科）
・小金澤　征也（こどもｾﾝﾀｰ⇒藤が丘病院小児科）
・川崎　恵吉　（整形外科⇒昭和大学病院整形外科）

【長期学外研修】

・佐野　文俊　（呼吸器ｾﾝﾀｰ）
・小川　悠史　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・武田　健一　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・伊藤　亮太　（整形外科）
・朝倉　慶　（内科）
・木村 ｼﾞｪﾆﾌｧｰ 由衣（消化器ｾﾝﾀｰ）
・山内　章裕（消化器ｾﾝﾀｰ）
・大橋　傑　（整形外科）
・五十嵐　健太（消化器ｾﾝﾀｰ）
・桜井　達也　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・田鹿　牧子　（こどもｾﾝﾀｰ）

【退職】

・石橋　史明　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・佐藤　雄太　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・堀尾　直裕　（循環器ｾﾝﾀｰ）
・伊東　友弘　（救急ｾﾝﾀｰ）
・三沢　志保　（内科）
・中野　寛子　（外科）
・櫛橋　幸民　（耳鼻咽喉科）
・渡邊　美保子（緩和医療科）
・木田　裕之　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・宍戸　華子　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・安藤　晋介　（こどもｾﾝﾀｰ）
・宇藤　悠　（内科）
・宮下　耕一郎（内科）
・山下　皓正　（外科）
・南　雅之　（眼科）
・久津川　誠　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・和田　祥城　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・磯崎　桂太朗（こどもｾﾝﾀｰ）
・齋藤　佑介　（内科）
・玉置　秀司　（外科）
・安水　渚　（産婦人科）
・小寺　志保　（麻酔科）

診療統計

2015 年 2 月～3 月統計データ（ ）内は 1 日平均

診療実日数 2 月（入院：28 日・外来：23 日）、3 月（入院：31 日・外来：25 日）

	外来患者数	入院患者数	救急搬送数	手術件数
2 月	27,231 人(1,184.0 人)	15,991 人(571.1 人)	363 件(12.1 件)	652 件(34.3 件)
3 月	28,069 人(1,122.8 人)	16.984 人(547.9 人)	333 件(11.1 件)	708 件 32.2(件)

患者さんへのお知らせ

身だしなみスタンダード

身だしなみの基本は他人に不快な思いをさせないことです。医療現場にふさわしい身だしなみのルールを病院全職員が遵守しています。従来の各部署でのルールだけではなく、病院として基本的なルール「身だしなみスタンダード」を作成致しました。医療系・事務系等で多少異なりますが、
清潔で整えられた身だしなみで患者さんへの「信頼感・安心感」につなげてまいります。

項　目	ポイント
髪	■清潔で、乱れがない。 ■髪が目にかからない。 ■前かがみになった時に髪が垂れる場合は、ピン等で留める。 ■髪を留めるピン・ゴム類（シュシュ・バレッタ等）は黒・紺・茶系の地味なもので小ぶりのものを使用する。 ■髪が肩につかない。（男性） ■髪が肩につく場合は、後方で一つに束ねるか、長い場合は「アップ」にする。（女性）
髪の色	■ナチュラルカラー（日本ﾍｱｶﾗｰ協会ﾚﾍﾞﾙｽｹｰﾙ　5～7 までとする） ■黒・ダークブラウン
アクセサリー	■先がとがっている髪留めや、派手なものは禁止。 ■大きく目立つアクセサリーは禁止。 ■結婚指輪・腕時計は可。但し処置を行う職種は外す。 ■ピアスは目立たないもの。耳以外は見えるところは不可。ピアスは 1 対のみとする。（※小さなｻｲｽﾞ・耳からぶら下がらない・光らないもの）
制　服	■汚れ・しみが目立たない・破れていないボタンが取れていない。 ■カーデガン・長白衣（床につくため）は処置やケアをする場合は禁止。 ■術衣は、派手な色・模様入りは禁止。 ■ネクタイは色・柄等派手でないもの。 ■ワイシャツは基本は白又は薄い色のもの。ストライプ は可とする。原色は禁止。派手でないもの。
名　札	■ 所定の位置に名前が見える様に付ける。（人事支給のｽﾄﾗｯﾌﾟ使用）
爪	■手のひらから見て爪が見えない程度。 ■色のついたマニキュアは禁止。（透明なマニキュア・爪を磨いて綺麗に見せることは可）
靴　下	■清潔で派手でないもの。 **【ユニフォーム（白衣等）姿】** ■パンツタイプ、スカートタイプ共に白色。 ■スカートタイプの場合はショートソックス、ハイソックス共に禁止。 ■スカートタイプで靴下をはかない場合はベージュのストッキング。 **【事務服】** ■スーツズボン、スカートタイプ共に色の指定はしないが派手でないもの。
靴	■サンダル、ミュール、長いﾌﾞｰﾂ、クロックスは禁止。 ■甲のかくれるもの。かかとのあるもの。
その他	■香水は禁止。 ■制汗剤・ハンドクリームは無香料又は微香のもの。 ■カラーコンタクトは禁止。 ■つけまつ毛・エクステは禁止。 ■化粧はナチュラルメイクとする。

上記は一部抜粋したものになります。

本院では患者さんにも滑りにくい不安定ではない靴の使用を勧めています。
血液、体液暴露予防と転倒予防のため、入院中はスリッパサンダル禁止と
させていただいております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

患者さんへのお知らせ

患者支援室の開設について

多職種による「チーム医療」により

きめ細やかな入退院支援を行います

この度、昭和大学横浜市北部病院は患者支援室を開設し、平成 27 年 4 月より実動開始いたしました。患者支援室とは、北部病院の使命である急性期医療および地域中核医療を推進するとともに、

◆患者さんからの医療福祉相談、がん相談、◆退院後の支援、サポート、転退院調整

◆病床の有効利用　など、患者さんの「医療と福祉の質の向上」のために開設いたしました。すなわち、病気を抱えて心配をしている患者さんに対して、病状の説明、入院、手術など院内での加療について相談とサポートを行い、適切かつ有効な院内ベッド調整を実施するとともに、退院時の計画立案、在宅支援を一体化して行います。

この業務には医師（主治医）、退院調整看護師、がん相談看護師、ｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ、事務が 1 つのチームとして連動して活動し、地域医療機関、在宅療養に伴う関係機関とも連携を取りながら、その患者さんにとって最善の医療を提供できる事を目標にしています。

これまでの北部病院でも医療福祉相談室が主導となり退院支援を行っていましたが、院内病床のスムーズで効率的な利用や地域医療機関等との連携に関して、患者支援室という 1 つのチームになって一致団結し、今まで以上に、より良い医療サービスが行えるものと考えています。緊急時の対応や在宅医療連携拠点、福祉施設からの入院加療依頼についても地域連携室とも密接に連携し、皆様の要望を伺いながら進めていきたと思っております。

患者支援室　構成メンバー

室長：福成　信博（医師）（北部病院副院長、内分泌外科）

副室長：柴田　雅子（看護師）

患者支援：泉對　福江（看護師）、角田　博子（看護師）

遠山　越子（MSW）、秋馬　麻耶（MSW）、泉　貴之（MSW）、三枝　直子（PSW）、

井田　百合子（PSW）、佐藤　裕一（PSW）　※MSW は社会福祉士、PSW は精神保健福祉士

退院支援：笹川　幸男（事務）、ﾍﾞｯﾄｺﾝﾄﾛｰﾙ：深尾　康弘（事務）、佐藤　英彦（事務）

総合相談センター、地域医療連携：磯飛　雄一（事務）

患者支援室は西棟 1 階にございます。

患者さんへのお知らせ

周術期外来のご案内

2014 年 9 月に、手術を受けられる患者さんにより安全で安心した手術環境を提供することを目的に周術期外来を開設しました。周術期外来は、麻酔科医師、手術室看護師、歯科衛生士が常駐し、リハビリテーション科や薬局も連携します。各職種が専門知識に基づき患者さんの術前状態をチームで連携して評価することで、より安全で安心して手術が受けられるような支援をしています。

【麻酔科】　麻酔の方法を詳しく説明し理解して頂くことにより、安心して麻酔、手術を受けて頂けるように支援しています。不安な面持ちで周術期外来に来られた患者さんが「手術を頑張ろう！」と思えるようにお手伝いさせていただきます。

【手術室看護師】手術室はどんなところだろうという不安が少しでも軽減できるように支援しています。また、手術中は麻酔がかかり患者さんは要望などを言葉で伝えることができません。そのため、事前に全身状態についてお話を伺い患者さんにあった薬品や保護道具を準備して安全な手術環境を整えています。

【歯科】周術期管理チームの立ち上げより、歯科・歯科口腔外科も管理チームの一員として周術期に際する口腔管理に携わって参りました。具体的な活動としては、歯科医師、歯科衛生士にて口腔内診査を行い、術後の肺炎等の合併症のリスクを軽減させる事を目的として術前・術後の口腔清掃を行っており、動揺歯がある場合は全身麻酔時の気管内挿管に備えて脱落防止のためにマウスガードを作成しております。今後も患者さんの術後の早期の離床、退院にお役に立てるように、また手術がより安全・安心に行われるお手伝いができるように、歯科室一同益々力を注いで参ります。

【リハビリテーション】リハビリテーション(以下リハ)部門は、手術後に日常生活動作や体力が低下しないように、また手術後に起こりうる肺炎などの合併症を予防する目的で周術期リハを実施しています。手術前から体力評価や呼吸練習などを開始します。手術翌日には歩行練習や排痰練習などを行い，１日でも早く回復し自宅退院を目指すお手伝いをしています。

【薬局】術中の出血のリスクを回避し、予定通り手術を実施するために術前に中止が必要な薬剤やサプリメント、健康食品の成分にも注意が必要であり、休薬期間をはじめ医薬品の情報提供に薬剤師はチームの一員として参加しています。

公開講座のご案内

当院では例年２回公開講座を開催しております。今年度１回目は以下の内容で開催いたします。一般の方も参加可能ですので、皆様奮ってご参加ください。

●日　時：平成 27 年 5 月 30 日（土）13 時～15 時 30 分
●場　所：昭和大学横浜市北部病院　西棟 4 階講堂
●受講料：無料
●予　約：不要です。当日、直接会場へお越しください。

第 1 講演：「出生前診断ってなに？」
北部病院　産婦人科　准教授　市塚　清健

第 2 講演：「胎児心臓超音波検査の最前線」
北部病院　循環器ｾﾝﾀｰ　助教　藤本　一途

過去の公開講座の様子

コメディカルリレー紹介　vol. 6≪栄養科≫

このページでは、病院内の部署・職種を順番に紹介しています。

病院における食事は、栄養を補うための“食事”であると同時に、治療の基礎として医療の上でも重要な役割を担っています。当院の栄養科では、患者さん一人一人に合わせた適切な栄養管理を多職種と連携を取りながら行い、病状改善をサポートしています。

～主な業務内容～

≪給食管理≫

安全で美味しく、治療の基礎となる食事の提供に取り組んでいます。食事は治療の一環であると同時に毎日の楽しみでもあり、生きる源でもあります。制限がある食事でも美味しく召し上がっていただけるように患者さんのご意見を伺いながら、毎日美味しい食事を提供できるよう努めています。

食事を適温（温かい料理は温かいまま、冷たい料理は冷たいまま）で提供するため、温冷配膳車を使用しています。

また、一般常食では患者さんの好みに合わせた食事を召し上がっていただけるように選択食を取り入れています。

≪栄養管理≫

入院患者さんの栄養管理は医師・看護師・管理栄養士等の多職種が共同して栄養管理計画書を作成し実施しています。栄養状態の低下がみられる患者さんには必要に応じて栄養補助食品等の追加を行い、何らかの理由で食事が召し上がれないときには、食べやすい食形態に変更したり、嗜好に合った食事を検討するなど個別対応を行っています。

また、食事だけでなく経管栄養や静脈栄養を含め、栄養量が不足していないか確認を行い栄養状態改善の支援をしております。

栄養サポートチームや緩和ケアチーム、各科のカンファレンス、褥瘡回診、などにも参加し、栄養管理を行っています。

≪栄養指導≫

食事療法が必要な患者さんには医師の指示のもと個別の栄養指導を行っています。様々な栄養上の問題に対して患者さんやご家族の生活スタイルに合ったわかりやすい指導・提案に努めています。

主な対象疾患は、糖尿病、腎臓病、心疾患、脂質異常症、高血圧症、痛風、肥満、消化管術後などです。外来通院の方、入院中又は退院した方が食事療法を続けられるように支援したいと考えています。

なお、栄養指導を希望される方は主治医にご相談ください。

TOPICS

患者サロンについて

サロンに集った仲間で、当事者同士でしか話せないこと、わかりあえない気持ちなど、心の内を語り合う中で、少し気持ちが軽くなったり、勇気や元気をもらったり、自分とは異なる考えに触れたり、いつの間にか元気をあげていたり、生活上の工夫のヒントが見つかったり・・など、「ひと」と「ひと」の自由な交流からお互いの支えあいの力を出し合う場となっています。

サロンの愛称は、がん患者サロン「きぼう」です。『希望を持つ気持ちを大事にしよう』『希望を一緒にみつけましょう』『希望を見ていてほしい』『希望はいつもあると信じよう』などなど、参加メンバーのさまざまな気持ちがこもっています。サロンのイメージフラワーは、花言葉『希望』を示すガーベラです。ミニレクチャーと交流会の２部構成で毎月第３木曜日、14 時から 16 時に開催しています。参加をお待ちしています。

↑ポスターはデイルームや院内掲示板に掲示しております。

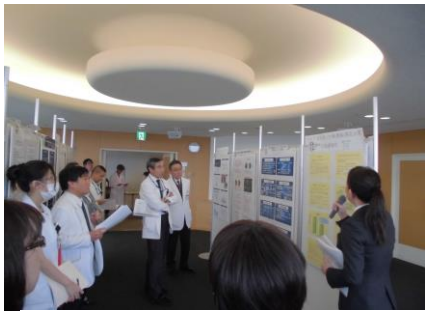
第５回北部医学会

第５回北部医学会が平成２７年３月７日（土）に開催されました。
31 演題に 100 人近くの職員が参加、互いの研究や業務改善の成果を発表しました。その後パネルは中央棟１階に展示され、来院された皆様にもご覧いただきました。

【最優秀演題賞】
病棟におけるワークライフバランスの取り組み　―スタッフの意識変化―　（８Ａ病棟）

【優秀演題賞】
帝王切開後子宮出血に対し Bakri バルーンが有効であった一例（産婦人科）

【学術奨励賞】
臨床工学室からのアウトブレイクの防止の一手として（臨床工学室）


開催当日の様子

編集後記

寒暖の差が著しい不安定な陽気がしばらく続きましたが、春というよりも初夏の訪れを感じる今日この頃です。今月の病院だよりは、年度初めということもあり、新事務長の挨拶から、新規配属医師および新研修医の紹介と盛りだくさんの内容となっております。なかでも、新たに開設された患者支援室のお知らせは、多職種による包括的な患者さんサポートによる、より質の高い医療サービスを実践するという、意義の大きいものであります。昨今、医療事故の報道も目に付きますが、患者さんの視点にたった医療サービスの提供は、北部病院の理念の一つである ”無事故の病院” であるためには不可欠であり、大変期待をしております。

広報委員会　委員　北見　明彦

北部病院だより　第 89 号
平成２７年５月１日発行
発行責任者 世良田 和幸 (昭和大学横浜市北部病院長)
編集責任者　緒方　浩顕 (広報委員会 委員長)
発行　昭和大学横浜市北部病院
〒224-8503　横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1
電話 045-949-7000(代表)
URL：http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。